

埼玉県フレームワーク方式の試行について（概要）

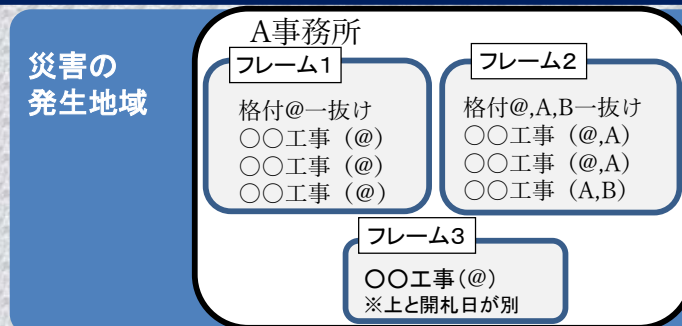
令和7年10月
入札課

1 背景・目的

- ◆ 本県の歴史的な課題「激甚化・頻発化する自然災害等への危機対応」として、災害発生時には本復旧工事について緊急性を優先しつつ、着実に発注できる入札契約方式を整えておくことが必要
 - ◆ 令和元年東日本台風を教訓に、複数の管内に跨る災害の場合には、同時期に数多く本復旧工事の発注が想定されることから、災害の発生していない地域からの応援を促すスキームの構築が必要
- ⇒ 災害復旧工事の不調不落対策として、予め入札参加希望者を募る「フレームワーク方式（指名競争入札）」を試行

2 フレームワーク方式とは

- ◆ 同種同規模の本復旧工事を1フレームとして、一抜け方式で入札を執行
- ◆ フレームの発注予定情報等を公表し、入札参加希望者を公募
- ◆ 入札希望者名簿を作成し、その中から指名業者を選定



3 「埼玉県フレームワーク方式」の概要

（1）特徴（埼玉オリジナル）

- ◆ 指名選定の公正性・透明性を高めるため、**予め公表した選定基準（加点方式）※に基づき、入札参加業者の加算点を順位付け**
【※選定基準：①地理的条件（**管内優先**）、②災害防止活動の協定・実績（**災害対応力**）、③工事成績（**施工能力**）】
- ◆ 同時期に数多くの本復旧工事をオール埼玉で対応するため、**入札参加希望者の公募対象は「県内全域」**
- ◆ 受発注者双方の事務負担を軽減するため、**落札候補者のみ入札参加条件を事後審査**

（2）発注手順

